

伊豆のといふもの金^主として横山茂之助といひ——ち氏友三人を招くい彩田屋敷の形を——極林の中へかへ入番村を建り、以て林中校系は暗く方角を知す、磁石を以て東西を定め、樵吏を雇て極を伐る——畝を伴ひ、及は極をとり、それを泥は落して、動かさず、を畝に板根浮て居つりす、木は木を結束ぬて、^{オモシ}重と——校系を渡して、外し、屋敷志らるに、稲十は東川の場所より、木の根堅横、又人の棚小——て、又棚斗出らる、と

芥菜類の菜草もなく、八九年の間ハ烏雀の群も来るに、潮堰を立田畠を大——らへ、水を切流——られ、古も堀り人の性、及も自、由はめて、開く、田地享保二年に、有、——に九百六十七石とされりといふ、廣野、新田といふ、お名——て上村中村十、又新とて、三村あり、屋敷の江石、増、小野、堀出——是を集て、上村の、内蔵の西より、中村、おての街道を作り——といふ、嘉祥年中、大地震、初形勢、改を——事、目、あよりん、り、如——、往古